

講義コード	1A003011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2802
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山口 由美子〔はり師・きゅう師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者、日本アンチドーピング機構公認シニアDOC、日本赤十字社救急法指導員〕

目的

本講義では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学ぶ。生死に関わる現場に遭遇した場合、遠征や合宿にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的であり、2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指す。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題を行なう。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 自己紹介・救急処置 (CRP/AED)①
2. 救急処置 (CRP/AED/RICE)②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理 ②
4. アスリートの内科的障害と対策 ①
5. アスリートの内科的障害と対策 ②
6. アスリートの外傷・傷害と対策 ①
7. アスリートの外傷・傷害と対策 ②
8. アスリートの外傷・傷害と対策 ③
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法① (ストレッチング、icing)
15. コンディショニングの手法② (テーピング、マッサージ)

成績の評価

定期試験にて成績評価を行なう。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てくるので、事前に次回授業範囲に目を通しておくこと。

履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATIトレーニング指導者一般科目に含まれているので、遅刻・欠席には十分に注意すること。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅰ-4スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ、共通Ⅲ-10スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ』の内容を含む。

テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（日本スポーツ協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

火・水曜日

10:30～15:00

研究などで学内にはおりますが部屋に不在の場合もあります。あらかじめアポイントメントを取ること。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出ること。

講義コード	1A004011
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2803
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山口 由美子〔はり師・きゅう師、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、日本トレーニング指導者協会公認トレーニング指導者〕

目的

本講義では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学ぶ。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされる。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されている。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的である。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指す。履修者はグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題発表を行なう。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心 ・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理（技能の練習と指導）
4. コーチングの心理（プレイヤーの個人指導と心理的問題）
5. コーチングの心理（チームの指導と心理的問題）（コーチング評価）
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. プレッシャー、あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント ①
12. 指導者のメンタルマネジメント ②
13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
14. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 ②

15. スポーツと人権・課題の発表と検討

成績の評価

定期試験にて成績評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てくるので、事前に次回授業範囲に目を通しておくこと。

履修上の注意

本科目は、（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー共通科目・JATI認定トレーニング指導者一般科目に含まれているので、遅刻・欠席には十分に注意すること。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅱ-2 スポーツと法、共通Ⅱ-3 スポーツの心理Ⅰ、共通Ⅲ-6 スポーツの心理Ⅱ』の内容を含む。

テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

火・水曜日

10:30～15:30

研究等で学内に居ても部屋を不在にする場合があります。あらかじめアポイントメントを取ること。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保するので申し出ること。

講義コード	1A010011
講義名	コミュニケーション学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

狩野 真理〔臨床心理士・公認心理師・看護師〕

目的

人間関係において基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。さらに、コミュニケーションについての一般的な知識のみでなく、カウンセリングの考え方や技法も取り入れることによって、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

到達目標

1. 言語的・非言語的コミュニケーションについて正しく理解することができる。
2. 医療従事者・社会人としての基本的なコミュニケーションスキルについて理解し、実践できるようになる。
3. 学んだ知識と技術を日常生活の中で役立て、さらなるスキルアップができるよう努める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. オリエンテーション：コミュニケーションについて
2. コミュニケーションの基本 (1)：印象
3. コミュニケーションの基本 (2)：ジョイニング
4. コミュニケーションの基本 (3)：聴き方
5. コミュニケーションの基本 (4)：訊き方
6. コミュニケーションの基本 (5)：伝え方
7. コンプリメント
8. リフレーミング
9. 解決志向アプローチ
10. アサーショントレーニング
11. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (1)
12. 対象者とのコミュニケーション場面を想定 (2)
13. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (1)
14. 対象者の家族とのコミュニケーション場面を想定 (2)
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

希望者にはレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践すること。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布する。

参考資料

「作業療法ケースブック コミュニケーションスキルの磨き方」（医歯薬出版）

「PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド 第2版」（医学書院）

「理学療法士・作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」（創元社）

「ナースのためのアサーション」（金子書房）

オフィスアワー

火曜日

講義コード	1A012011
講義名	スポーツコーチング論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2805
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

寺岡 祐助[日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー]

目的

スポーツにおけるコーチングの基本を学ぶ。
自身の将来を考え、指導者としての自己確立の重要性を学ぶ。
上記を踏まえ、担当教員の現場経験を紹介し、自分がスポーツに関わる指導者となった場合、どのような対応をするかの考えを深めることを目的とする。

到達目標

スポーツにおけるコーチングの重要性を理解する。
自己確立の実施とその重要性を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 自己開示について
2. コーチングとは？
3. 自己確立について
4. 自主性・自発性について
5. プレーヤーの在り方
6. 指導者の在り方
7. コーチングの基本
8. コーチングのスキル
9. ミーティングについて
10. モチベーションについて
11. リーダーシップについて
12. チームビルディングについて
13. 自己とコーチングの関連性
14. 自己確立の実施
15. まとめ

成績の評価

授業内レポート（10%）
期末レポート（90%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。

履修上の注意

本科目は、（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの対応科目である。

テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考資料

「スポーツコーチング学 指導理念からフィジカルトレーニングまで」（西村書店）

オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00

金曜日 13：00～14：30

講義コード	1A014011
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こし、健康を阻害する要因となっている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。
有酸素運動についての正しい知識を身につける。
スポーツによるけがと予防法を知る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明①
6. 健康日本21（第二次）の説明②
7. 健康日本21（第二次）の説明③
8. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力、測れる体力
9. 体格指数、体脂肪の測定について、皮下脂肪厚法を学ぶ
10. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）、有酸素性運動と運動強度、心拍数の測定
11. 有酸素運動に適した運動②（ジョギング）
12. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）
13. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）
14. 肥満と減量、スポーツ活動に多いケガや病気(内科)
15. スポーツ活動に多いケガや病気(外科)

成績の評価

試験（100％）にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

履修上の注意

（財）健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生および、
（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

・遅刻・早退は1回を $\frac{1}{3}$ 欠席として計算する。

参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（日本体育施設協会）

オフィスアワー

木曜日の12:30～13:00

講義コード	1A023011
講義名	スポーツ社会学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2804
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中尾 哲也[日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、アシスタントマネージャー]

目的

日本スポーツを支えている社会に触れる。

到達目標

日本スポーツを支えてきた日本の文化（人・物・環境）を理解し、様々なスポーツに関わる方法や役割を考える基礎的知識を深める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 関西医療大学 雪上・水上安全講習会、大阪マラソンサポート、学内・学外トレーナー実習の案内
2. ストレスコーピング・ライフスキル
3. フィギュアスケート男子
4. 運動部活動のあり方に関する総合的なガイドライン
5. 柔道
6. スポーツタレント発掘事業
7. 新体操
8. スポーツ基本計画（1）
9. フェンシング
10. スポーツ基本計画（2）、スポーツの概要と歴史（共通科目Ⅰ P.36～43）
11. 車椅子テニス
12. 文化としてのスポーツ（共通科目Ⅰ P.44～52）、地域におけるスポーツ振興方策と行政のかわり（共通科目Ⅰ P.149～158）
13. クラシックバレエ
14. 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義（共通科目Ⅰ P.159～166）
15. 社会の中のスポーツ（共通科目Ⅱ P.13～20）、総合型地域スポーツクラブの育成と運営（共通科目Ⅱ P.78～86）

成績の評価

学期末試験により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

試験後に模範解答を掲示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー」、「日本スポーツ協会公認 スポーツプログラマー」、「JATI認定 トレーニング指導者」を受験する学生は、当科目を履修しなければならない。

テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ」(日本スポーツ協会)

オフィスアワー

月～木曜日 12:30～13:00

講義コード	1A027021
講義名	トレーナー見学実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2815
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕
 相原 望〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーに必要な技術・能力習得を目的とする見学実習を行う。

到達目標

スポーツ現場における基本的な知識・技術などを身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

コミュニケーション能力／専門知識

授業計画

1. アスレティックトレーナー（AT）と倫理
2. 競技スポーツにおけるATの役割①
3. 競技スポーツにおけるATの役割②
4. 競技スポーツにおけるATの役割③
5. 競技スポーツにおけるATの役割④
6. 競技スポーツにおけるATの役割⑤
7. 競技スポーツにおけるATの役割⑥
8. 競技スポーツにおけるATの役割⑦
9. 各競技におけるATの役割⑧
10. 競技スポーツにおけるATの役割⑨
11. 競技スポーツにおけるATの役割⑩
12. 競技スポーツにおけるATの役割⑪
13. 競技スポーツにおけるATの役割⑫
14. 競技スポーツにおけるATの役割⑬
15. 競技スポーツにおけるATの役割⑭
16. 競技スポーツにおけるATの役割⑮
17. 組織の運営と管理①
18. 組織の運営と管理②

19. 組織の運営と管理③
20. 他スタッフとの連携①
21. 他スタッフとの連携②
22. 他スタッフとの連携③
23. 職業としてのアスレティックトレーナー①
24. 職業としてのアスレティックトレーナー②
25. 職業としてのアスレティックトレーナー③
26. 見学実習発表会①
27. 見学実習発表会②
28. 見学実習発表会③
29. 次年度へ向けたグループワーク①
30. 次年度へ向けたグループワーク②

成績の評価

毎回作成するデイリーレポートや授業態度および自己評価などを総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

デイリーレポートを評価し、返却する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。毎回作成するデイリーレポートを中心に課題や問題点およびそれらの解決方法を継続的に学修する。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため、受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。

テキスト

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨（日本スポーツ協会発行）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

講義コード	1A047011
講義名	医学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	P1-0201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川本正純（はり師・きゅう師）
 百合邦子（はり師・きゅう師）
 近藤哲哉（医師）

目的

医学史、現代における医療問題を理解する。

到達目標

医学、医療の歴史、問題点や意義について自分なりの考え方をもち、問題意識をもって医療に携われるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／専門知識

授業計画

- 1 人口問題と医療（近藤）
- 2 補完代替医療（近藤）
- 3 戦争と医療 [1]（近藤）
- 4 戦争と医療 [2]（近藤）
- 5 胃瘻（近藤）
- 6 電磁気と医学（近藤）
- 7 宗教と医療 [1]（近藤）
- 8 宗教と医療 [2]（近藤）
- 9 医学史古代（百合）
- 10 医学史中世（百合）
- 11 医学史近世（百合）
- 12 あん摩マッサージ指圧はりきゅう医療史[1]（川本）
- 13 あん摩マッサージ指圧はりきゅう医療史[2]（川本）
- 14 あん摩マッサージ指圧はりきゅう医療史[3]（川本）
- 15 あん摩マッサージ指圧はりきゅう医療史[4]（川本）

成績の評価

- [1] 川本担当分は受講中の態度で評価します。（34点満点。追再試験なし。）
 [2] 百合担当分はレポートを課します。（33点満点。追再試験なし。）
 [3] 近藤担当分は講義中に小テストを行います。（33点満点。追再試験なし。）
 以上を合計し、60点以上になれば合格です。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

小テスト後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出欠を確認する時刻に遅刻や早退などで不在な場合、欠席として扱います。

近藤の講義では質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

なし。

参考資料

なし。

オフィスアワー

川本 木曜日16:30～17:00

百合 月曜日9:00～12:00

近藤 月曜日9:00～12:00

講義コード	1A061011
講義名	運動生理学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-3001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 照屋 博康	指定なし

目的

運動生理学の基礎になる学問は生理学である。この学問は「運動すると身体がどの様に反応するのか。」また「なぜそのような反応をするのか。」を学ぶ学問でもある。安全で有効な運動指導をするにあたって、これらの反応を考え理解する事が大切である。従って、本講義では運動による身体に及ぼす影響を理解する事を目的とする。

到達目標

運動することによる生理機能に及ぼす影響を理解し、健康維持増進や競技力向上に対する運動指導の関わり方を考えられるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 加齢による体力の変化 ～先天的要因と後天的要因から～
2. 神経と筋肉の基礎
3. 運動と反射① ～ストレッチ効果～
4. 運動と反射② ～パフォーマンス効果～
5. 運動と筋力調節とトレーニング効果および運動学習
6. 運動と筋損傷と筋修復
7. 運動とエネルギー供給系① ～運動強度と乳酸～
8. 運動とエネルギー供給系② ～筋疲労の基礎～
9. 運動とエネルギー供給系③ ～筋疲労の応用～
10. 運動強度と呼吸の変化 ～AT・LT・VT～
11. 運動と呼吸・循環① ～体温調節～
12. 運動と呼吸・循環② ～酸素借と酸素負債とEPOC～
13. 運動と内分泌系の基礎 ～運動強度と分泌動態～
14. 運動と内分泌系の応用 ～運動に伴う身体への影響に着目して～
15. まとめ

成績の評価

定期試験(90%)と小テスト(10%)の総合評価(100%)により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180時間)の予習と復習を行なうこと。授業で学んだことの理解を深め

る為、運動中に生じる様々な生体反応に興味を持つこと。

履修上の注意

私語は厳禁とし、授業参加に励むこと(授業妨害と感じた場合は退出を命じることもあるので十分に注意すること)。

「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー」、「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者 (JATI) 」を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない。

テキスト

「入門運動生理学 第4版」 (杏林書院)

参考資料

「生理学テキスト」 (文光堂)

「運動生理学20講」 (朝日書店)

「身体トレーニング 運動生理学からみた身体機能の維持・向上」 (真興交易(株)医学出版部)

オフィスアワー

後期水曜日 8:30~8:50

講義コード	1A065011
講義名	英語表現法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

TOEIC 対策の問題演習を通して、英語コミュニケーションの基盤となる4技能を身につけること(中級レベル)。

到達目標

発音・語彙・文法・読解の演習を通して、英語という言語の特質を理解し、英語の運用能力を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

(場面、話題)

1. 空港
2. 鉄道の駅
3. デパート
4. レストラン
5. ホテル
6. 病院
7. 銀行
8. 職場
9. スポーツクラブ
10. 観光
11. 国際会議
12. コンピューター
13. 採用
14. 研修
15. まとめ

成績の評価

定期試験70%、小テストおよび課題提出30%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST (成美堂)

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10～13:10)

講義コード	1A066011
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

目的

- ・ 様々な医療従事者が共通して知っていなければならない医療英語を身につけること。
- ・ 医療現場で少しでも英語が使えるようになること。

到達目標

- ・ 医療に関する一般的な事柄を英語で理解できる。
- ・ 各種国家資格の医療従事者の業務内容を英語で理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. 人体について
2. 高カロリーと健康
3. 伝染病
4. 個人と公衆の衛生管理
5. 日本の医療の改善策
6. 医療における「針刺し損傷」
7. 北里柴三郎と日本の医療
8. 臨床検査技師の仕事
9. 臨床工学技士の仕事
10. 診療放射線技師の仕事
11. 理学療法士の仕事
12. 作業療法士の仕事
13. 言語聴覚士の仕事
14. チーム医療の必要性
15. まとめ

成績の評価

定期試験70%、小テストおよび課題提出30%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

The Hospital Team: English for Medical Specialists (南雲堂)

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10～13:10)

講義コード	1A139011
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・授業への取り組み度10%（授業中の小レポートにより評価）

課題レポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は、単位認定できない。

※詳細については、授業の中で伝える。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中に、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

履修上の注意

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布する。

参考資料

- | | |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」 | （岩波新書） |
| 「日本語はおもしろい」 | （岩波新書） |
| 「私家版 日本語文法」 | （新潮文庫） |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | （笠間書院） |
| 「全国アホ・バカ分布考」 | （新潮文庫） |

オフィスアワー

火曜日 12：30～13：00

講義コード	1A177011
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 狩野 真理	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

狩野 真理〔臨床心理士・公認心理師・看護師〕

目的

心理学は「こころの科学」であり、心理学の基礎的知識を学ぶことによって幅広い視点から人間理解を深めることを目的とする。この授業では、基礎心理学に加え、応用心理学も学ぶことによって、日常生活の中で心理学がどのように結びついているかについても理解する。さらに、その学びを通して人間理解を深めると同時に自分自身も理解し、日常生活で役立てる知識とすることを目的とする。

到達目標

1. 心理学の基本的な考え方を理解し、他者理解・自己理解を深める。
2. 「こころ」と「からだ」のつながりについて理解し、対象者のみならず自分自身の健康をも視野に含めて理解を深める。
3. 学んだ知識を日常生活での経験と関連づけて考え、広い視野で考える習慣をつける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. オリエンテーション・心理学の歴史
2. 感覚・知覚・記憶の心理学1
3. 感覚・知覚・記憶の心理学2
4. 学習の心理学1
5. 学習の心理学2
6. 性格・知能の心理学1
7. 性格・知能の心理学2
8. 発達心理学
9. 社会・集団の心理学
10. 臨床心理学
11. ストレス理論
12. 運動指導の心理学的基礎
13. 動機づけ面接法1
14. 動機づけ面接法2
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

70

30

期末レポート %・授業内小レポート %
定期試験、レポート等に対するフィードバック
希望者にはレポートを開示する。
自己学習
講義・演習内容を日常生活の中で考え、実践すること。授業 ¹ コマにつき ² コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
本科目は、健康運動実践指導者、JATI認定トレーニング指導者の対応科目となっています。講義の最後に感想（質問を含む）など小レポートを書き、提出してもらいます。
テキスト
講義の資料として、適宜プリントを配布します。
参考資料
「看護学生のための心理学」（医学書院） 「教養の心理学」（ミネルヴァ書房） 「医療スタッフのための動機づけ面接法」（医歯薬出版株式会社） 「トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版」（大修館書店） 「健康運動実践指導者養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）
オフィスアワー
火曜日

講義コード	1A187021
講義名	人体の機能Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2005
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 耕太	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。はり師きゅう師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅰ」では、神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学修する。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを目標にする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 生理学一般
2. 神経 (神経の一般的性質、変性と再生)
3. 神経 (静止膜電位、活動電位)
4. 神経 (興奮の伝導と伝達)
5. 神経 (末梢神経系)
6. 神経 (中枢神経系)
7. 神経 (自律神経系)
8. 筋 (筋収縮の仕組みとその分類)
9. 筋 (骨格筋、心筋、平滑筋)
10. 筋 (筋のエネルギー代謝)
11. 運動 (骨格筋に神経支配)
12. 運動 (下行路、運動の調節)
13. 感覚 (感覚の仕組みと一般的性質)
14. 感覚 (皮膚感覚と内臓感覚)
15. 感覚 (特殊感覚)

成績の評価

定期試験の成績に基づいて評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (90分) の予習と復習を行うこと。

事前にテキストをよく読んで、疑問に思うことやわからないことをあらかじめ洗い出しておくことが重要である。

テキスト

「生理学 第3版」(医歯薬出版)

参考資料

適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー

講義開始前後

講義コード	1A188021
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2006
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田村 弘	指定なし

目的

生理学は、生命の仕組みを明らかにする学問です。生理学を学ぶことで、人体を対象とする鍼灸やスポーツトレーナー活動における、基礎となる科学的な知識を得ることができます。生理学が対象とする学問領域は、大きく、動物性機能と植物性機能の2領域に分けることができます。前者は「人体の機能Ⅰ」で、後者は「人体の機能Ⅱ」で学修します。

到達目標

生理学における植物性機能の仕組みを学修し、理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝（三大栄養素、同化と異化）
10. 体温（産熱、発熱、体温調節の仕組み）
11. 排泄（尿の生成）
12. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
13. 内分泌（ホルモンの性質）
14. 内分泌（内分泌腺の働き）
15. 生殖・成長と老化（生殖器機能、性ホルモン）

成績の評価

期末試験により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

(財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの共通科目の対象科目です。

テキスト

『生理学 第3版』東洋療法学校協会編
佐藤優子・佐藤昭夫 著 (医歯薬出版)

参考資料

適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:10~12:30

講義コード	1A194021
講義名	人体の構造Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義する。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とする。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も自立学習が出来ることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 人体の構成
3. 骨系 (脊柱の骨)
4. 骨系 (脊柱の骨)
5. 骨系 (脊柱の骨)
6. 骨系 (胸郭の骨)
7. 骨系 (上肢の骨)
8. 骨系 (上肢の骨)
9. 骨系 (上肢の骨)
10. 骨系 (上肢の骨)
11. 骨系 (上肢の骨)
12. 骨系 (下肢の骨)
13. 骨系 (下肢の骨)
14. 骨系 (下肢の骨)
15. 骨系 (頭蓋の骨)
16. 骨系 (頭蓋の骨)
17. 骨系 (頭蓋の骨)
18. 骨系 (頭蓋の骨)
19. まとめ
20. 筋系 (体幹の筋)
21. 筋系 (体幹の筋)
22. 筋系 (上肢の筋)
23. 筋系 (上肢の筋)
24. 筋系 (上肢の筋)

- 25. 筋系（下肢の筋）
- 26. 筋系（下肢の筋）
- 27. 筋系（下肢の筋）
- 28. 筋系（下肢の筋）
- 29. 筋系（頭頸部の筋）
- 30. まとめ

成績の評価

筆記試験(100%)で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要である。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理すること。

テキスト

「解剖学」（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

講義コード	1A195021
講義名	人体の構造 II
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義する。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とする。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も継続的に学修が出来ることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 受講ガイダンス
2. 内臓系 (消化器)
3. 内臓系 (消化器)
4. 内臓系 (消化器)
5. 内臓系 (消化器)
6. 内臓系 (消化器)
7. 内臓系 (消化器)
8. 内臓系 (呼吸器)
9. 内臓系 (呼吸器)
10. 内臓系 (泌尿器)
11. 内臓系 (泌尿器)
12. 内臓系 (生殖器)
13. 内臓系 (生殖器)
14. 内臓系 (内分泌)
15. 内臓系 (内分泌)
16. まとめ
17. 循環器系 (一般)
18. 循環器系 (動脈)
19. 循環器系 (動脈)
20. 循環器系 (動脈)
21. 循環器系 (静脈・リンパ)
22. 神経系 (中枢神経)
23. 神経系 (中枢神経)
24. 神経系 (中枢神経)

- 25. 神経系（中枢神経）
- 26. 神経系（伝導路）
- 27. 神経系（末梢神経）
- 28. 神経系（末梢神経）
- 29. 感覚器系
- 30. 感覚器系

成績の評価

筆記試験(100%)で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学修する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要である。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理すること。

履修上の注意

国家試験科目である。

テキスト

「解剖学」（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

講義コード	1A197011
講義名	人体の構造実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学習方法も含め学ぶことを目的とする。また、この科目は実習科目であるが、学習効果を高めるために並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅰ」の内容と相互に連係している。

到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 医の倫理（総論）
2. 骨格構造の学び方①
3. 骨格構造の学び方②
4. 骨格構造の調べ方①
5. 骨格構造の調べ方②
6. 体表実習①
7. 体表実習②
8. まとめ
9. 骨実習（胸郭）
10. 骨実習（上肢）
11. 骨実習（下肢）
12. 骨実習（頭蓋）
13. 筋実習（体幹）
14. 筋実習（上肢）
15. 筋実習（下肢）

成績の評価

授業時間中の課題評価(80%)、授業への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業時間中の課題は、次回毎に開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と

復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけること。

テキスト

「解剖学」（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

講義コード	1A198011
講義名	人体の構造実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A1-2004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

本科目は人体を構成する各器官系の形態と構造について系統解剖学の立場から学習方法も含め学ぶことを目的とする。また、この科目は実習科目であるが、学習効果を高めるために並行して開講される講義科目「人体の構造Ⅱ」の内容と相互に連携している。

到達目標

受講生が人体の成り立ちや各器官系の形態や構造について解剖学に基づいて体系的に考察することができる力を身につけることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 医の倫理（総論）
2. 人体構造の学び方
3. 内臓構造の学び方①
4. 内臓構造の学び方②
5. 人体構造の調べ方
6. 内臓構造の調べ方①
7. 内臓構造の調べ方②
8. まとめ
9. 体表実習①
10. 体表実習②
11. 体表実習③
12. 組織実習①
13. 組織実習②
14. 組織実習③
15. 組織実習④

成績の評価

授業時間中の課題評価(80%)、授業への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業時間中の課題は、次回毎に開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

毎回の授業の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に予習（授業範囲の教科書ページの通読）と

復習（講義ノートや配付プリントを利用した授業内容の反復）を行う習慣をつけること。

テキスト

「解剖学」（医歯薬出版）

資料としてプリントを配付する。

参考資料

「日本人体解剖学」（南山堂）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」（医学書院）

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

講義コード	1A221011
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、相澤 慎太

目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合し、選択種目を決定する。
第2週から1班：軽スポーツ・運動ゲームコース、2班スポーツコースとに分かれて実践する。
 - 体力測定の実践①(筋力、筋持久力、柔軟性など)
 - 体力測定の実践②(筋力、筋持久力、柔軟性など)
 - 体力測定の実践③（身体組成、形態の測定）
 - 体力測定の評価
 - 1班：運動ゲーム
2班：バドミントンの実践①
 - 1班：フライングディスク①
2班：バドミントンの実践②
 - 1班：フライングディスク②
2班：バドミントンの実践③
 - 1班：フライングディスク③
2班：バドミントンの実践④
 - 1班：フライングディスク④
2班：卓球の実践①
 - 1班：グラウンドゴルフ①
2班：卓球の実践②
 - 1班：グラウンドゴルフ②
2班：卓球の実践③
 - 1班：ミニバレー①
2班：ソフトボールの実践①
 - 1班：ミニバレー②
2班：ソフトボールの実践②
 - 1班：ミニバレー③
2班：ソフトボールの実践③
- ※ 天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

成績の評価

50

50%

学習到達度 %・実習への取り組み度 にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業終了後、動きと知識の再確認を行うこと。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

・「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者」を受験する学生は、当該科目は必須である。

オフィスアワー

木曜日の12:30～13:00

講義コード	1A222011
講義名	生涯スポーツII
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、相澤 慎太、渡辺 俊哉

目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. 【合同授業】（五十嵐、相澤、渡辺）

ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決めるので、必ず出席すること。）

【補強運動・スポーツコース】

（担当：五十嵐、相澤）

【太極拳】

（担当：渡辺）

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 2. 体操 | 2. 太極拳の基本 |
| 3. 補強運動の実践①（器具を使用しないトレーニング） | 3. 太極拳の基本 |
| 4. 補強運動の実践②（マシンを使用するトレーニング） | 4. 太極拳の基本 |
| 5. 補強運動の実践③（フリーウェイトを使用するトレーニング） | 5. 動作名：起 勢（チーシー） |
| 6. 補強運動の実践④（アジリティートレーニング） | 6. 動作名：野馬分鬃（イマフインゾン） |
| 7. 補強運動の実践⑤（サーキットトレーニング） | 7. 動作名：倒巻肱（ダバインゴン） |
| 8. 補強運動の実践⑥（トレーニングプログラムの実践） | 8. 動作名：左攬雀尾（ズオランチュウエイ） |
| 9. 卓球の基礎 ラケットの選択とボール遊び | 9. 動作名：左攬雀尾（ズオランチュウエイ） |
| 10. フォアハンド、バックハンドで返球 | 10. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチュウエイ） |
| 11. フォアハンド、バックハンドのツツキ | 11. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチュウエイ） |
| 12. フォアハンド、バックハンドストローク | 12. 動作名：単 鞭（ダンビエン） |
| 13. いろいろなサーブ、スマッシュの説明 | 13. 動作名：十字手（シーズーシヨウ） |
| 14. ゲームの説明と実践 | 14. 動作名：収 勢（ショウセイ） |
| 15. 卓球の実技試験 | 15. 総まとめ |

成績の評価

学習到達度50%・実習への取り組み度50%にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポート等を開示する。

自己学習

授業終了後、動きと知識の再確認を行うこと。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

- ・「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目は必須である。

参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

オフィスアワー

木曜日の12:30～13:00

講義コード	1A226011
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 青野 由紀	指定なし

目的

生命のしくみ（生物学）に関する知識は医学系科目の基礎となり、医療を志す者にとって必須である。

生物学は基本的には生物の共通性・多様性について学修することである。共通性とは分子、細胞、エネルギー、自己複製などであり、多様性とは種、生態系などである。これらの共通性・多様性の学習を通じて自然科学に対する考え、探求する能力などを育成し、また生物学に関する基本的な概念を理解することで科学的な自然観を養う。

到達目標

1. 生命活動に関する基本的な内容を理解する。
2. 細胞に関する知識・理解を深める。
3. 分子生物学に関する基本的な内容を理解する。
4. 身近な問題に関して科学的な考えができるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 細胞の機能と構造
2. 分裂・増殖
3. 細胞死
4. 細胞内外の情報伝達
5. 遺伝子・DNA
6. 遺伝情報の流れ
7. 分子生物学の応用（1）PCR法
8. 分子生物学の応用（2）遺伝子組み換え
9. 再生医療
10. 生体防御
11. 自然免疫
12. 獲得免疫
13. 生物と環境（1）
14. 生物と環境（2）
15. まとめ

成績の評価

筆記試験での評価とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
授業前に1度は前回の授業ノートを見直しておくこと。

履修上の注意

テキスト

「スクエア最新図説生物」（第一学習社）

参考資料

「Essential細胞生物学」（南光堂）

オフィスアワー

授業後

講義コード	1A229011
講義名	生命の化学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

目的

生体を構成する物質の基礎知識の修得を通して、はり灸・スポーツトレーナー学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

到達目標

生体構成成分について、基本的な化学的性質を修得し、生体内での役割を総合的に理解することを通して、疾病、傷害からスポーツ医療に至る問題を解決するための基礎知識を修得できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 水
2. 生体膜と浸透圧
3. 化学反応と酵素
4. 酸・塩基平衡と緩衝作用
5. 糖質 (1)
6. 糖質 (2)
7. 脂質 (1)
8. 脂質 (2)
9. 蛋白質・アミノ酸 (1)
10. 蛋白質・アミノ酸 (2)
11. 核酸 (1)
12. 核酸 (2)
13. 消化・吸収
14. 生体とエネルギー
15. 生体の恒常性の維持

成績の評価

定期試験 (70%)、小テスト (30%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、定期試験の模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。参考資料をもとに次回講義予定内容について予習し、授業中に課した確認問題を重点に復習しておくこと。

テキスト

配布資料による。

参考資料

「バイオサイエンス化学」(東京化学同人)
「ライフサイエンス系の基礎物理化学」(東京化学同人)
「生命科学のための有機化学II」(東京大学出版会)

オフィスアワー

月曜日・木曜日(12:20~13:10)

講義コード	1A230011
講義名	生命倫理
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

矢本 希夫

目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
 - 第二講 医療情報と個人情報保護
 - 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
 - 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
 - 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題
 - 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
 - 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
 - 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
 - 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
 - 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療
- (池田)
- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
 - 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
 - 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術
 - 第十四講 出生をめぐる倫理問題 (その4) —新生児医療
 - 第十五講 出生をめぐる倫理問題 (その5) —その他
- (矢本)

成績の評価

定期試験、2人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

講義コード	1A270011
講義名	東洋思想
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1213
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 水野 杏紀	指定なし

目的

東洋医学の古典『黄帝内経』を軸とし、陰陽五行、暦と歳時、養生、風水、歴史、文化、孔子や老子の思想、故事成語などの東洋的なもののみかた全般を学び、東洋思想の理解を深めることを目的とする。さらにそれらと関連し、中国文化を学ぶ。

到達目標

中国では古来より道を志す者は必要な技能の熟達を目指すとともに、みづからの思想哲学を形成することを重要課題とした。そうした基盤として重要となるのが東洋思想である。本講義では東洋思想を修得し、それぞれの立場において、その学びを十分に活かすことができることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 授業全体の解説 東洋思想を学ぶ
2. 陰陽五行① 陰陽五行と四季の歳時（『黄帝内経』）
3. 陰陽五行② 陰陽五行と食材（『神農本草経』）
4. 陰陽五行③ 陰陽五行と食養生
5. 相学① 西洋・東洋の手相学
6. 相学② 東洋の人相学（宋の『神相全篇』）と伝統医学
7. 相学③ 風水が唱える長生きする住まい
8. 養生① 四季の食養生（お茶など）
9. 養生② 多彩な養生の紹介
10. 故事成語① 中国の諸子百家とその思想
11. 故事成語② 儒家（孔子・孟子）と道家（老子・荘子）
12. 故事成語③ 項羽と劉邦、三国志の世界など
13. 中国文化①（漢字、中国語など）
14. 中国文化②（書画、住まいなど）
15. 全体のまとめ

成績の評価

レポート50%・小テスト30%・ミニレポート20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

ミニレポートに関しては授業のなかでもその内容を紹介する

自己学習

配布プリントをもとに次回の予習事項を提示する。
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習や復習を行うこと。

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考資料

参考資料などは授業内で適宜紹介する。「易、風水、暦、養生、処世—東アジアの宇宙観」（講談社）

講義コード	1A310011
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで人体に関する物理の応用を具体例として、物質と自然の法則を学ぶ。その過程で、細かい事項を暗記するのではなく、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない見方と考え方を身につけ、わかりあえる力をたかめる。

到達目標

この授業で使用するテキストは、医療系の広範囲の学生を対象としていて、さまざま話題が展開されている。一方で高校で学ぶ物理、化学、生物、数学の内容との接続が配慮されている。しかもそれらの知識がなくてもある程度理解できるようになっている。授業では、できるだけ身の回りの事象も題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と人体
03. 力と身体のバランス
04. 力と身体のバランス
05. 力と身体のバランス
06. 運動モデルとスポーツ
07. 運動モデルとスポーツ
08. 熱とエネルギー代謝
09. 圧力と循環・呼吸
10. 音と聴覚・発声
11. 光と視覚
12. 電磁気と神経・興奮状態
13. 電磁気と神経・興奮状態
14. 波と画像診断
15. 放射線と人体

成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

テキスト

「医療系のための物理学入門」（講談社）

参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）

オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認すること。

講義コード	1A378031
講義名	鍼灸基礎実習Ⅰ（鍼基礎）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-5001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山崎 寿也〔はり師・きゅう師〕

北川 洋志〔はり師・きゅう師〕

目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な鍼施術の基礎知識を学び、刺鍼の基礎技術を修得する科目である。

刺鍼操作の基礎である片手挿管法と旋撚直刺刺入の方法を習得する。

到達目標

片手挿管50回以上（5分間）

足三里 直刺 15mm刺鍼 30秒以内

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 鍼の基礎知識（講義）
2. 片手挿管法の基本練習
3. 鍼枕での旋撚刺法の練習
4. 実習室における諸注意
5. 鍼の有害事象（講義）
6. 各自の下腿の切皮練習
7. 各自の下腿の刺入練習
8. 相手の前腕部の切皮練習
9. 相手の下腿の刺入練習
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習①
12. 実技試験の練習②
13. 実技試験①
14. 実技試験②
15. 実技再試験

成績の評価

実技試験にて評価

定期試験、レポート等に対するフィードバック

採点終了後、実技試験評価表を開示する。

自己学習

授業1回（1コマ）につき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）
その他、資料配布

参考資料

「はりきゅう実技〈基礎編〉」（医道の日本社）
「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」（医歯薬出版）

オフィスアワー

山崎 木曜日(12:10～13:00)

北川 木曜日(12:10～12:40)

講義コード	1A379021
講義名	鍼灸基礎実習Ⅱ（灸基礎）
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-5002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山崎 寿也〔はり師・きゅう師〕

北川 洋志〔はり師・きゅう師〕

目的

この科目は、鍼灸師になるために必要な灸施術の基礎知識を学び、施灸の基礎技術を修得する科目である。

四肢の取穴法と施灸技術の基礎と八分灸・重ね灸の方法を習得する。

到達目標

紙上施灸100壮以上（10分間）

米粒大・半米粒大の艾炷作成の習得

重ね灸の習得

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 灸の基礎知識（講義）
2. 紙上での施灸の基本練習
3. 灸の有害事象（講義）
4. 各自の下腿の八分灸練習
5. 相手の下腿の八分灸練習
6. 相手の前腕の八分灸練習
7. 相手の下腿の重ね灸練習
8. 相手の前腕の重ね灸練習①
9. 相手の前腕の重ね灸練習②
10. 実技試験の説明
11. 実技試験の練習
12. 実技試験①
13. 実技試験②
14. 実技再試験
15. 無痕灸の実習

成績の評価

実技試験：80%

その他（提出物等）：20% にて評価

定期試験、レポート等に対するフィードバック

採点終了後、実技試験評価表を開示する。

自己学習

授業1回につき2コマ（90分）相当の予習・復習・課題を行うこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）

その他、資料配布

参考資料

「はりきゅう実技〈基礎編〉」（医道の日本社）

「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」（医歯薬出版）

オフィスアワー

山崎 木曜日(12:10～13:00)

北川 木曜日(12:10～12:40)

講義コード	1A397011
講義名	鍼灸理論Ⅰ（基礎）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-4102
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 研一〔はり師・きゅう師〕

目的

鍼灸治療は東洋医学の一つとして、長い歴史と伝統の中で発展してきた治療法であり、古代の中国思想である陰陽五行説に立脚した医療であるといえる。従来、鍼灸治療は、経験的で科学性に欠けるきらいがあった。鍼灸理論は、鍼灸治療の治療効果を、科学の目で観察し、そのメカニズムを論理的に考察する能力を養うことを目的とする授業科目である。したがって、講義内容は、鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか、また鍼灸刺激は生体の組織や器官にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果はどのようなメカニズムで出現するのかなどについて、現在知られている生理学や免疫学などの科学的知見に基づき考えることが中心となる。

到達目標

鍼灸の治療理論を、科学的な側面から理解するための基礎知識を習得することを最低限の到達目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 1. 1. 鍼灸施術について(5) 灸の基礎知識
2. 1. (6) 灸術の種類
3. 1. (8) リスク管理①（灸）
4. 1. (1) 概論 (2) 鍼灸の基礎知識①
5. 1. (2) 鍼灸の基礎知識②
6. 1. (3) 刺鍼の方式と術式
7. 1. (4) 特殊鍼法①
8. 1. (4) 特殊鍼法②
9. 1. (7) 鍼灸の臨床応用
10. 1. (8) リスク管理①（鍼）
11. 1. (8) リスク管理②（安全・衛生）
12. 2. 鍼灸治効の基礎 (1) 痛み感覚の受容と伝導
13. 2. (2) 温度感覚の受容と伝達
14. 2. (3) 触圧感覚の受容と伝達
15. 2. (4) 筋の伸張刺激と振動の受容と伝導

成績の評価

定期試験の成績によってのみ評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社）

参考資料

「鍼灸臨床最新科学」（医葉薬出版）

「図解鍼灸療法技術ガイド1」（文光堂）

「図解鍼灸臨床手技マニュアル」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日 12:00～13:00

講義コード	1A416011
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井本 泰彦・大島 稔・伊藤 俊治

目的

生物・物理・化学の各分野の基礎項目について十分な知識を持つことにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、医療人として必要な生物学における基礎的な内容を確認する。物理・化学分野においては、高等学校で学ぶ重要項目の理解を深め専門分野の学習に係る物理現象を系統的に理解する能力と物質とその変化を化学的に理解する能力を養う。したがって高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

到達目標

1. 専門科目の学習に必要な生物学の基礎が理解できる。
2. 専門科目の学習に必要な物理学の基礎が理解できる。
3. 専門科目の学習に必要な化学の基礎が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 生物学の基礎、生化学と細胞構造（伊藤）
2. 遺伝情報の意味と働き、細胞増殖の仕組み（伊藤）
3. 代謝（エネルギー産生と同化作用）（大島）
4. 生体のホメオスタシス（大島）
5. 動物機能の働き（大島）
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力）（井本）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメント）（井本）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）（井本）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎（井本）
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）（井本）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン（井本）
12. 分子量、式量、物質質量、溶液の濃度（井本）
13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH（井本）
14. 酸化と還元、身近な無機化合物（井本）
15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）（井本）

成績の評価

課題の提出を「授業への取り組み度」とする。

各分野とも評価は、定期試験70%、授業への取り組み度を30%とし、その合計で評価する。
3分野の評価の平均を講義の評価とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

「スクエア最新図説生物」(第一学習社)

オフィスアワー

授業終了後(井本)

月曜4限終了後(大島)

月曜午前以外随時、ただし所用で在室しないこともあるのでメールでアポイントを取ることを推奨する(伊藤)

講義コード	1A417011
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

統計学の基礎について理解できるように講義する。

受講生が統計学の基礎、特に記述統計学を学ぶことで、将来の推測統計学の学習に備えることを目的とする。

さらに、統計学に基づいた医学研究における研究デザインの理解を目的とする。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指す。また講義後も継続して学修が出来ることを目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 統計学とは（総論，社会における統計学）
2. 統計学とは（医学における統計学）
3. 母集団と標本
4. データの種類
5. 記述統計学
6. 度数分布とヒストグラム
7. 最頻値・中央値・平均値
8. 分布
9. 分散と標準偏差①
10. 分散と標準偏差②
11. 仮説検定
12. 区間推定
13. 統計学に基づいた医学研究における研究デザイン
14. 研究論文から読み解く統計学
15. まとめ

成績の評価

レポート等(80%)、授業内課題への取り組み度(20%)で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、希望者にレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に学習する習慣をつけること。

テキスト

特に指定しない。

資料としてプリントを配布する。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

講義コード	1A418011
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

目的

法学の基礎的知識、日本国憲法について

到達目標

法を社会統制のひとつとして生きた社会の関連の中で考えるために法を抽象的ではなく他の社会科学と関連させて理解し、社会のあり方、社会人として必要な法的知識、法の役割、憲法問題を理解し説明できるとともにリーガルマインドを養うことを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

成績の評価

定期試験80%、ミニッツペーパー10%、レポート10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「目で見る憲法」 (有斐閣)
「現代法学入門」 (有斐閣)
「ポケット六法 (2019年)」 (有斐閣)

参考資料

講義において紹介する。

講義コード	1A421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池藤 仁美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

池藤 仁美・増田 研一・小河 健一・坂口 俊二・伊藤 俊治・戸村 多郎・中吉 隆之・寺岡 祐助

目的

本科目では、本学科に入学した意味を知り、大学での「学び方」を理解する。また、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で、「人間力」や「仕事力」が身につくように支援する。

到達目標

- ・グループ内での討論で、自分の考えを述べ、相手を尊重し、グループとして意見を集約できる。（グループワーク）
- ・自分が受講している科目についてその意義を述べることができる。
- ・自分の将来像とそれに近づくために必要な課題を述べることができる。
- ・プレゼンテーションスキルを身につけている。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. 導入の導入（初年次教育の必要性を知る）
2. ジェネリックスキルを評価しよう（PROGを使って）
3. なぜ大学を雇用したのか？
4. 社会人基礎力を磨く
5. 現場に立つ
6. 現場を振り返る
7. 授業を考える
8. 授業と現場とつなげる
9. PROG結果説明会
10. 鍼灸師と社会
11. レポートの真髓をきわめる（レポートの作成の仕方（文献検索・資料収集方法を含む））
12. 鍼灸師のチャレンジ（問題編）
13. 鍼灸師のチャレンジ（解決編）
14. 現場からの難問（問題編）
15. 現場からの難問（解決編）

成績の評価

「鍼灸臨床について」のレポート20%、ピア評価25%、KAN医learning10%、最終レポート45%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

2回のレポートのルーブリックとピア評価の自由記述欄を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

オンライン(Moodle)で配信される予習動画を事前に視聴して予習をしてください。

テキスト

テキストは特に指定せず、資料を配付する。

オフィスアワー

※他は事前にメールなどで連絡ください。

金曜12:30～13:00（池藤）

水曜12:30～13:00（増田）

木曜12:30～13:00（小河）

水曜12:00～13:00（坂口）

火～木曜12:10～12:40（戸村）

金曜午後を除く随時（伊藤）

月曜16:20～17:00/水曜12:30～13:00（中吉）

水曜16:30～18:00/金曜13:00～14:30（寺岡）

講義コード	1A540011
講義名	経穴学Ⅰ（経絡の流注）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2303
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

鍋田 理恵〔はり師・きゅう師〕

目的

『黄帝内経素問』は、気府論篇で経穴について、「脈気発する処」と記載しており、経穴学の教科書では、経穴を「病気の反応点（または診断点）であり、鍼灸の治療点である」と定義している。鍼灸治療を行うには、このような経穴の性質や部位について習熟することが、必須の条件であるといえる。ここでは、経絡と経穴を理解させるため、①臓腑と経絡流注の概要、②正経十二経脈と奇経八脈について講義する。

到達目標

督脈・任脈・手太陰肺経から足厥陰肝経までの経絡の流注を覚える。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 臓腑と経絡流注の概要
2. 督脈の流注
3. 任脈の流注
4. 手太陰肺経・手陽明大腸経の流注
5. 足陽明胃経の流注
6. 足太陰脾経・手少陰心経の流注
7. 手太陽小腸経の流注
8. 足太陽膀胱経の流注
9. 足少陰腎経の流注
10. 手厥陰心包経・手少陽三焦経の流注
11. 足少陽胆経・足厥陰肝経の流注
12. 経穴の意義と取穴法の基本
13. 腰背部の経穴の流注と横並び
14. 胸腹部の経穴の流注と横並び
15. 体表標治法、骨度法および指量法

成績の評価

定期試験の成績（80％）に、中間試験、小テスト（20％）を加味して評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

・成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）

「臨床経穴図」（医道の日本社）

「定本経穴図鑑」（主婦の友社）

「WHO STANDARD ACUPUNCTURE POINT LOCATIONS IN THE WESTERN REGION」（World Health Organization）

「WHO/WPRO標準経穴部位－日本語公式版－」（医道の日本社）

オフィスアワー

鍋田：火曜日～金曜日の12：30～13：00（事前にメールにて連絡をすること）

講義コード	1A541011
講義名	経穴学Ⅱ（要穴Ⅰ）
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

谷 万喜子〔はり師・きゅう師〕

目的

経穴学は、鍼灸臨床を直接支える重要な科目である。経穴学Ⅰでの学習に続いて、効果的な鍼灸施術を行うために重要な経穴について理解する。

到達目標

骨度法、体表標示法、指量法といった取穴における総論的な事項を習得する。さらに、正経十二経脈の中から、6経（手太陰肺経、手陽明大腸経、手少陰心経、手太陽小腸経、手厥陰心包経、手少陽三焦経）に所属する、①五行穴、②原穴・郄穴・絡穴について、および③背部兪穴と督脈、足太陽膀胱経の背部に位置する経穴について理解して、人体で取穴できる基礎を作る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 経穴学Ⅰの復習
2. 要穴について（総論）①
3. 要穴について（総論）②
4. 取穴の基本（骨度法、体表標示法、指量法）について
5. 手太陰肺経・手少陰心経・手厥陰心包経の要穴について①
6. 手太陰肺経・手少陰心経・手厥陰心包経の要穴について②
7. 手太陰肺経・手少陰心経・手厥陰心包経の要穴について③
8. 手陽明大腸経・手太陽小腸経・手少陽三焦経の要穴について①
9. 手陽明大腸経・手太陽小腸経・手少陽三焦経の要穴について②
10. 手陽明大腸経・手太陽小腸経・手少陽三焦経の要穴について③
11. 背部兪穴について
12. 人体背部に位置する経穴について①
13. 人体背部に位置する経穴について②
14. 要穴について（復習）
15. まとめ

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。経穴学は、短期的な学修では身につかない。繰り返し勉強して覚える必要がある。

テキスト

『新版 経絡経穴概論』（医道の日本社）

参考資料

「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）

「臨床経穴図」（医道の日本社）

「定本経穴図鑑」（主婦の友社）

「カラーアトラス 取穴法」（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

講義コード	1A546011
講義名	東洋医学総論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2301
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中吉 隆之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中吉 隆之〔はり師・きゅう師〕

目的

東洋医学では鍼灸、漢方薬、薬膳、気功、按摩、推拿などの様々な治療が行なわれている。これらの治療法はそれぞれ異なっているものの、同じ東洋医学の理論に基づいて行なわれている。この科目では、東洋医学の歴史的な沿革、哲学思想、人体の構造と働き、病気の原因などのを学びながら東洋医学の基礎理論を理解していく。

到達目標

陰陽五行学説の概要について説明する事ができる。
 東洋医学における人体の構造と働きの概要について説明する事ができる。
 東洋医学における病気の原因の概要について説明する事ができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 東洋医学とは
2. 東洋医学の思想①
3. 東洋医学の思想②
4. 東洋医学の思想③
5. 気・血・津液・精・神①
6. 気・血・津液・精・神②
7. 蔵象論①
8. 蔵象論②
9. 蔵象論③
10. 蔵象論④
11. 経絡論①
12. 経絡論②
13. 東洋医学の沿革
14. 病因論①
15. 病因論②

成績の評価

定期試験の結果（90%）、小テストの結果（10%）に基づいて総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

小テスト終了後、定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）

参考資料

「漢方用語大辞典」（燎原書店）

「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング・第2版」（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00

水曜日：12:30～13:00

記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応する。

※事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

講義コード	1A547011
講義名	東洋医学総論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A1-2302
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中吉 隆之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中吉 隆之〔はり師・きゅう師〕

目的

東洋医学総論Ⅰに引き続き、東洋医学における弁証（西洋医学の診断に相当する）、診察法の基礎を学ぶ。

到達目標

東洋医学における病気の診察法である四診の概要について説明する事ができる。

東洋医学の病気の分析方法である八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証、経絡弁証などを用いて初歩的な弁証を行う事ができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. 東洋医学総論Ⅰの復習
2. 八綱弁証①
3. 八綱弁証②
4. 気血津液弁証①
5. 気血津液弁証②
6. 気血津液弁証③
7. 気血津液弁証④
8. 臓腑弁証①
9. 臓腑弁証②
10. 臓腑弁証③
11. 臓腑弁証④
12. 臓腑弁証⑤
13. 臓腑弁証⑥
14. 臓腑弁証⑦
15. 経絡弁証①
16. 経絡弁証②
17. 経絡弁証③
18. その他の弁証①
19. その他の弁証②
20. 四診（望診①）
21. 四診（望診②）

22. 四診（望診③）
23. 四診（聞診）
24. 四診（問診①）
25. 四診（問診②）
26. 四診（問診③）
27. 四診（切診①）
28. 四診（切診②）
29. 四診（切診③）
30. まとめ

成績の評価

定期試験の結果（90%）、小テストの結果（10%）に基づいて総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

小テスト終了後、定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「新版 東洋医学概論」（医道の日本社）

参考資料

「漢方用語大辞典」（燎原書店）

「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング・第2版」（医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00

水曜日：12:30～13:00

記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応する。

※事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

講義コード	1A555011
講義名	スポーツトレーニング論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2806
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 寺岡 祐助	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータル的なコンディショニングを実施していく必要がある。体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防や対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チーム運営・管理など、多くのものが含まれる。本講義では、担当教員の経験も紹介し、スポーツに求められる体力要素の知識を深め、指導上の基礎を学習することを目的とする。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。
 スポーツトレーニングの基礎を理解する上での用語を説明出来るようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. トレーニングとは何か？
2. 体力とは何か？
3. スポーツパフォーマンスと体力
4. トレーニングの原理・原則
5. トレーニング処方
6. ウォーミングアップとクーリングダウン
7. トレーニングの種類
8. 指導計画の立て方
9. 運動指導の科学
10. スポーツ活動と安全管理
11. 対象に合わせたスポーツ指導（中高齢者）
12. 対象に合わせたスポーツ指導（女性とスポーツ）
13. 対象に合わせたスポーツ指導（障害者とスポーツ）
14. 対象に合わせたスポーツ指導（発育発達期）
15. 指導するとは？

成績の評価

- ・授業内レポート（10%）
- ・記述式定期試験（90%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

聞き慣れない単語の意味を調べておくこと。また、その単語を説明出来るように復習しておくこと。

履修上の注意

（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、（財）健康・体力づくり事業財団認定健康運動実践指導者、JATIトレーニング指導者の資格試験受験の為に必要な科目である。

テキスト

「公認スポーツ指導者 養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

参考資料

「トレーニング指導者テキスト 理論編」（大修館書店）

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥」（公益財団法人 日本スポーツ協会）

「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

オフィスアワー

水曜日 16：30～18：00

金曜日 13：00～14：30

講義コード	1A556011
講義名	スポーツトレーニング論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A1-2807
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太〔健康運動指導士〕

目的

スポーツ競技において高い競技力を発揮するためには、トータルなコンディショニングを計画的に実践していくことが不可欠である。コンディショニングとは、競技力を高めるために必要なあらゆる要素を改善および調整していくことであり、体力トレーニングをはじめとして技術や戦術の練習、障害や疾病の予防および対処、食事や休養面の改善、メンタル面の強化、チームの運営・管理など、非常に多くのものが含まれる。

本講義ではスポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高められるために行うトレーニング全般について学修する。

また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

スポーツトレーニングの概略を理解する。
 実際の現場で実践できる基礎理論を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／鑑別力

授業計画

1. スポーツバイオメカニクスの基礎
2. スポーツバイオメカニクス（スポーツ・トレーニング）
3. トレーニング理論とその方法（トレーニングの考え方）
4. トレーニング理論とその方法（筋力トレーニング①）
5. トレーニング理論とその方法（筋力トレーニング②）
6. トレーニング理論とその方法（スピードトレーニング）
7. トレーニング理論とその方法（持久力トレーニング）
8. トレーニング理論とその実際（トレーニング目標の設定）
9. トレーニング理論とその実際（トレーニングプログラムの設計①）
10. トレーニング理論とその実際（トレーニングプログラムの設計②）
11. 体力テストとその活用
12. 体力テストとその活用
13. スキルの獲得と獲得過程①
14. スキルの獲得と獲得過程②
15. まとめ

成績の評価

小レポート50% 定期試験50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は、「健康運動実践指導者」、「日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー」、「トレーニング指導者」の対応科目である。

テキスト

「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(日本スポーツ協会)

オフィスアワー

木曜日12:30~13:00